

【地域畜産振興部門 特別賞】

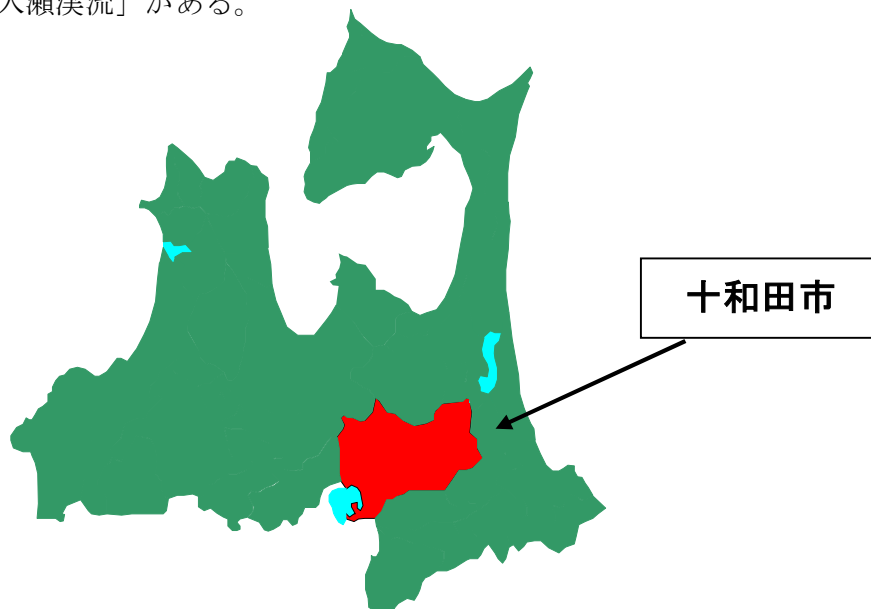
牛がつなぐ福祉と畜産の里

— 牛づくりは人づくり —

社会福祉法人恩和会 授産施設農工園千里平
(代表：坂本 嘉隆)

1. 地域の概況

十和田市は青森県の東南中央部に位置し、面積は 68,860ha であり、東方には三本木台地が広がり、十和田湖を源とする奥入瀬川、稲生川など多数の河川が台地を横断し太平洋へと流れ、西方には十和田八幡平国立公園に含まれている奥羽山脈の八甲田山系や十和田山等の多くの山地を有するとともに、国の特別名勝の「十和田湖」と天然記念物に指名されている「奥入瀬溪流」がある。



気候は平均気温 9.4℃、年間降水量 960 mmと冷涼型で四季がはっきりしているが、春の終わりから夏にかけてヤマセ（偏東風）が吹き、平常よりも 5～6℃も低い低温が続き、農作物に大きな被害を受けることがある。

農作物作付け延べ面積は 11,200ha で、うち水稻 4,790ha、飼料作物等 3,940ha、野菜 1,070ha となっており、にんにく、そばが県内 1 位、小麦、大豆が県内 3 位の作付けとなっている。

家畜の飼養状況は、肉用牛が11,800頭、豚が73,500頭で県内1位、採卵鶏454千羽で県内3位の規模となっている。

農業産出額は174.6億円で、このうち畜産が64.4億円(39%)、野菜が54.2億円(31%)、米が46.6億円(27%)を占める。また、畜産産出額のうち豚が40.8億円、肉用牛が16億円とともに県内1位であり、本県を代表する畜産地域となっている。

作付面積の概要(平成18年)

(単位:ha、%)

区 分	作付 延べ面積	稲	麦類	雑穀	豆類	野菜	飼肥料 作物	その他
青森県	137,600	53,300	2,120	2,840	4,760	18,500	28,200	27,880
十和田市	11,200	4,790	273	464	384	1,070	3,940	279
十和田市/県	8.1	9.0	12.9	16.3	8.1	5.8	14.0	1.0

家畜飼養頭数(平成19年)

(単位:戸、頭、千羽)

区 分	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数
青森県	311	15,800	1,330	60,100	182	386,400	38	6,088
十和田市	25	750	313	11,800	39	73,500	3	454
十和田市/県	8.0	4.7	23.5	19.6	21.4	19.0	7.9	7.5

農業産出額の概要(平成18年)

(単位:億円、%)

区 分	合計	米	野菜	畜産			その他	
				肉用牛	豚	その他		
青森県	2,885	589	653	704	81	214	409	939
十和田市	174.6	46.6	54.2	64.4	16.0	40.8	7.6	9.4
十和田市/県	6.1	7.9	8.3	9.1	19.8	19.1	1.9	1.0

2. 活動の目的と背景

【動機：農工園 千里平設立の経緯】

- ・北海道から昭和 21 年に入植した前園長の坂本嘉隆氏は、は 8ha の水田を耕作する稲作農家であったが、未熟児で産まれた長女が言語障害をもち、自立、就職などで大変苦労をしたことから施設の設立を決意した。
- ・昭和 59 年に住宅、倉庫、作業所、ビニールハウス、畜舎等を整備し、15 歳以上の知的障害者を受け入れるミニ授産施設をおよそ 7 千万円の私財を投入してスタートし、設立主体は「十和田地区手をつなぐ親の会」で当初は利用者 2 名だった。
- ・千里平という名前は「千里の道も一歩から」という思いが込められ命名された。
- ・昭和 62 年 4 月に社会福祉法人の認可を受け、法人化に伴う主体施設は「恩和会」で、定員が一举に 20 名となった。

(活動目的)

- ・知的障害者は「何もできないのではなく何もさせてもらえない」のが現状で、養護学校卒業後に働く場所を提供し、職業訓練と生活訓練により農作業を通じた自立と社会参加を狙いとしている。

【肉用牛飼育の開始】

- ・初めは利用者が水稻、芝生生産、実験用モルモットの飼育などを行っていた。
- ・県の主催する農業経営者会議に前園長の坂本氏が出席した際、「牛好き」という縁で出会った十和田市の畜産農家福沢常次郎氏から、昭和 62 年に「利用者にぜひ牛も飼わせたい」という意向で黒毛和牛の雄子牛 1 頭の寄贈をうけた。
- ・福沢氏の指導のもと利用者とともに飼育し、2 年後同市の肥育共励会で優秀賞を獲得し 100 万円で販売したことが利用者の励みになった。飼育していく過程で利用者達の動物への愛情が牛、人双方に良い影響を与えるものと確信し、積極的に優良牛の導入を始め、専門指導員も配属しながら肉用牛飼育事業を拡張していった。その中で特記すべきは①平成 11 年に丁寧な牛の飼育が評価され、島根県より雌牛「福桜一の六」を特別に導入し、②平成 12 年に宮崎県から種雄牛「安平」系の雌牛を購入した事があげられる。
- ・牛のことはほぼゼロからのスタートであり、近接地で同様な施設での類似事例はなかったため、福沢氏から指導を受けるとともに、専門指導員らが市場や共進会、研修会に足を運び勉強を続けている。

3. 地域畜産振興活動の内容

【全般】

障害者を対象に「農」を中心とした生活訓練、職業訓練による自立、社会参加を目的に社会福祉事業を実施している中で、肉用牛という大型の家畜を飼育し、その繁殖、育成、肥育という一連の作業を取り入れている。

また、子牛、種畜の売却や肥育牛の出荷を事業活動としており20年以上継続している。「農作業部門」の中には稲作、育苗、畑作、粗飼料生産も展開され、家畜の堆きゅう肥の草地還元、地域での稲わらと堆肥交換をしながら資源循環型農業も目指している。

<主な施設の概要 敷地面積 9,288.07 m²>

区	分	棟数、面積	備考
基 幹 施 設	千里荘（管理棟）	1 (353.35 m ²)	
	作業所	3 (590.39 m ²)	
	コミュニティセンター	1 (117.75 m ²)	
	車庫	1 (165.62 m ²)	
	自転車小屋	1 (24.84 m ²)	
	休憩所	1 (135.80 m ²)	
	その他（育苗ハウス等）		
農 業 関 係	牛舎	3 (1,769.95 m ²)	
	バンカーサイロ	1 (66.24 m ²)	
	わら小屋	1 (662.40 m ²)	
	ハイテク研究所	1 (66.11 m ²)	
	放牧地（水田放牧）	2.5ha	
	採草地（転作田等）	50.0ha	
	水田	2.2ha	
	その他（ハウス牛舎等）		
関連施設	福祉ホームとわださんまり荘	4 (309.50 m ²)	宿泊施設

【稲作部門】

自給分の米を生産するほか、地域農家からの委託を受け、育苗や苗の販売もしている。最近では減反制度の切り替え等で育苗枚数が減ってきているものの、廉価で質が良いとの評価を貰っている（最近5年間の実績は別表）。

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
品種	駒の舞 つがるロマン	駒の舞 つがるロマン	つがるロマン まっしぐら	つがるロマン まっしぐら	つがるロマン まっしぐら
育苗枚数	3,405	2,988	3,128	2,630	1,868

【肉用牛飼育部門】

肉用牛の飼育が、主な事業活動となっている。当初1頭の寄贈から始まったが、現在の飼養規模は地域としても比較的によく、繁殖牛78頭、肥育牛13頭、子牛・育成牛44頭の計135頭となっている。畜産班は和牛1班から4班（各7名）に分かれるほど希望者が多く、毎日の作業に熱心に取り組んでいる。

牛は自家生産の他外部導入も行っており、血統、体型的に優れている。

施設での生産牛は、性格温和で飼いやしく地域の模範となっている。その理由としては、一日中でも牛のブラッシングをするなど牛の担当になった利用者が愛情を一心に込めて、飼育しているためと考えられる。

前園長、坂本嘉隆氏の長年の経験から積み上げた言葉を借りると「利用者とのふれあいで牛の気持ちが優しくなりいい性格、肉質に育つ。アニマルセラピーという言葉の中には、牛によって人が安らぐだけでなく、人によって牛が安らぐという側面もある事を体現している。牛を飼い始めてから利用者が笑顔を絶やさなくなった。また、担当の牛を持たせてもらえることが利用者のあこがれであり、担当を決め世話をすることで責任感が生まれる。牛に愛情を与えると牛から愛情が返ってくることを、牛が利用者に非常によくつくことで実感している」とのことである。

そんなところから、「牛づくりは人づくり」という農工園のモットーが生まれた。

施設や設備だけではない究極のアニマルウェルフェアといえるかも知れない。

併せて、共進会や枝肉出荷、共励会へ積極的に出品しており、その結果が利用者の励み、自信となっている。その他の主な取り組みとしては、牛舎は電柱などの廃材を使った自家労力による低コスト畜舎の建築、水田（1ha×4区）放牧による労働力削減と農山村の景観保持、調教とふれあいを兼ねた「牛の散歩」なども行っている。

【地域交流】

近隣農家との作業協力だけでなく、社会参加として夕涼み会、カラオケ発表会、クリスマス会やお茶会を実施している。

芝生、植栽等を環境整備し園内のレクリエーションだけでなく、老人クラブや学童のキャンプ場として開放しており、中高年ボランティアスクールや保育所、体育振興会へも場所を提供している。

毎年、十和田市民と障害者の集い「ゆめ色フェスティバル」(障害者が行う学芸会のようなもの)を開催している。地域から千人近くが集まり、障害者も市民も一緒になって寸劇や餅つき大会などを楽しんでいる。

【生活訓練】

肉用牛飼育部門、水稻部門の他に家庭科部門を設置し、共同生活の中で、掃除、洗濯、調理、後片づけに取り組んでいる。

【スポーツ】

利用者の体力増進とレクリエーションを兼ねてフリスビー、ソフトボールチームをつくり、大会に参加している。また、レクリエーションとしてボーリング大会も開催している。

【特記事項】

事業全体としては、大型家畜である肉用牛の飼育を中心的な事業活動としており、同様な社会福祉施設としては希有な事例であると思われる。

4. 活動の年次別推移

年次	活動の内容等	成果	課題・問題点等
昭和 58 年	小規模授産施設として発足	利用者 2 名が入園 育苗、モルモットの飼育等開始	モルモットの飼育がうまくいかず中止する
昭和 62 年	農工園千里平開園 社会福祉法人として認定される 肉牛の飼養に取り組む	雄子牛 1 頭の飼育からスタート	
昭和 64 年	十和田地域の共進会への初出品 畜産指導員を設置する	優秀賞に入選 その後、数々の入賞を獲得	受精卵移植等の畜産技術が必要となる
平成 10 年	地域のソフトボール大会に参加を始める	県大会優勝 4 回ほか全国大会へも出場	
平成 11 年	種雄牛を導入		
平成 15 年	福祉ホームとわださんまり荘開設	宿泊施設として利用者が利用	入居者の高齢化が進む

5. 活動の成果

【肉用牛作業等を通じた社会参加】

- ・食肉加工関連会社へ利用者が就労するなど社会参加がみられ、施設で養った真面目な勤務態度は高く評価されている。また、地域との関わりの中で、「ゆめ色フェスティバル」という大きなイベントの開催や、老人クラブやボランティアグループとの交流も活発に行われているほか、県内外のソフトボール大会でも目覚ましい成績を残している。

<ソフトボールにおける功績>

- 県大会 優勝4回
- 北海道・東北ブロック大会 優勝3回、準優勝3回
- 全国大会 出場5回 優勝1回、3位2回

【アニマルセラピー】

牛によって人が安らぎ、人によって牛が安らぐという双方向のアニマルセラピーが成立し、牛は温和で飼いやすく、当該施設での大規模家畜の飼育を可能としている。

【資源循環】

堆きゅう肥の草地還元や、近隣農家との稲わら交換により、牛と畑と田んぼの間に資源が循環され、環境に優しい農業が実践されている。

【優良な肉用牛の生産】

- ・現在、繁殖牛78頭と子牛・育成牛44頭、肥育牛13頭の計135頭が飼養され、地域でも大規模和牛経営である。生産者は県共進会や枝肉共励会などで上位入賞を果たしているほか、県試験場の供卵牛に選抜されるなど優良牛を生産しており、家畜市場販売を通じて地域畜産振興に寄与している。
- ・最初の子牛は飼育開始から2年後に十和田市の共進会で優秀賞に選ばれる等、以下の様な好成績を示している（抜粋）。

<品評会部門>

年 月	共 進 会 名	成 績
平成2年9月	第29回青森県畜産共進会	チャンピオン、優秀賞
平成2年9月	東日本和牛能力共進会福島大会	出場
平成3年8月	第30回青森県畜産共進会	チャンピオン2
平成5年8月	第32回青森県畜産共進会	優秀賞
平成6年8月	第33回青森県畜産共進会	1等賞2
平成7年9月	第34回青森県畜産共進会	チャンピオン、優秀賞

平成8年9月	第35回青森県畜産共進会	優秀賞、1等賞2
平成9年9月	第36回青森県畜産共進会	優秀賞2
平成11年9月	第38回青森県畜産共進会	チャンピオン（東北農政局長賞、 県知事賞）
平成13年9月	青森県和牛共進会	グランドチャンピオン（農林水産 大臣賞、東北農政局長賞） 高等登録チャンピオン、県知事賞
平成16年9月	青森県肉用牛共進会	チャンピオン（東北農政局長賞、 県知事賞）、優秀賞
平成17年9月	青森県肉用牛共進会	優良賞
平成18年9月	青森県肉用牛共進会	優良賞3
平成19年9月	青森県肉用牛共進会	優良賞
平成20年9月	青森県肉用牛共進会	優良賞

<共励会・枝肉出荷部門>

年 月	区 分	結 果
昭和62年2月	枝肉出荷（初出荷）	A-5
昭和62年7月	枝肉出荷	A-5
昭和62年10月	枝肉出荷	A-5
昭和63年5月	枝肉出荷	A-5
昭和63年8月	枝肉出荷	A-4
平成元年7月	枝肉出荷	A-5
平成2年7月	枝肉出荷	A-5 2頭
平成3年6月	枝肉出荷	A-5
平成4年12月	仙台中央卸売食肉市場 枝肉共励会	チャンピオン賞 優秀賞
平成5年1月	仙台中央卸売食肉市場 枝肉共励会	チャンピオン賞 優勝賞2
平成5年11月	第25回青森県肥育肉用牛共進会 *農林水産祭式典参加	農林水産大臣賞 *明治神宮会館へ11名参加
平成5年12月	仙台中央卸売食肉市場 枝肉共励会	A-5
平成6年 8~10月	枝肉出荷	A-5 1頭 A-3 3頭
平成8年9月	枝肉出荷（初出荷）	銀賞
平成8年12月	第29回青森県肥育肉用牛共進会	優秀賞
平成9年12月	第30回青森県肥育肉用牛共進会	最優秀賞
平成11年11月	枝肉出荷	A-5
平成11年12月	枝肉出荷	A-4
平成11年12月	第32回青森県肥育肉用牛共進会	A-4
平成12年9月	枝肉出荷	A-5, B-4
平成12年12月	枝肉出荷	A-4
平成16年12月	県肉用牛枝肉共進会	A-4

【利用者による飼いやすい牛づくり】

毎日の愛情牛とのふれあい、特に丁寧なブラッシングは牛を温和にし、よく人に懐いている。このような牛が高く評価されるということが、利用者の楽しみ、生きがい、自信につながっており、これら地域の肉牛農家からも高く評価されている。

6. 今後の方向性と課題

【社会参加】

- ・ 職業訓練を積んでも、就労先の確保が困難な状況にある。そのため、地域の企業に継続して働きかけていく。
- ・ 「インターンシップ制度（障害者版）」のようなものがあれば、障害者に対する社会の理解がすすむものと思われる。
- ・ 利用者の高齢化が進んでいるため、今後はグループホームとして、老後も共同生活が出来る体制をつくっていく必要がある。

【肉用牛飼育および農作業部門】

- ・ 子牛や枝肉の価格変動に左右されない繁殖肥育一貫生産を強化するため、肥育技術の向上が課題である。
- ・ 農業機械を使用する大規模化は困難なため、品質の向上で生産性の向上を図っていく。

7. 普及にあたっての留意点

同様施設における当該事例の普及に当たっては、農工園千里平の取り組み内容と成果を考慮すると、次の2点が重要と考える。

- 1) アニマルセラピー効果を期待できるような施設づくりが必要であり、そのためには障害者の心に受け入れられるような穏やかな飼育管理のできる施設、職員体制が不可欠と考える。
- 2) 核となる肉用牛の飼育技術と併せて知的障害者を理解し、懸命に対応できる職員の確保が重要と考える。

地域畜産振興図

